

# Ge空間情報センター

ニュースレター 第31号 2022年5月発行

## 【目次】

- [1. TOPICS 「市民協働ツール MY CITY REPORT の普及状況と機能拡充」](#)
- [2. 上位アクセス状況\(集計期間：2022.3.1-4.30\)](#)
- [3. 最新のお知らせ](#)
- [4. UDC 受賞者コラム \(1\)](#)
- [5. 注目のコンテンツ紹介](#)

## 1. TOPICS 「市民協働ツール My City Report の普及状況と機能拡充」



My City Report コンソーシアム  
事務局長 角田明宝

### 1. 導入自治体の広がり

My City Report は「市民協働投稿サービス」「道路損傷検出サービス」から成る自治体向けのサービスです。おかげさまで多くの自治体の皆様にご利用いただいております。導入自治体の輪は大きく広がってきています。

My City Report のサービス提供のためにコンソーシアムは、3年前の2019年4月1日に設立いたしました。設立当初は、千葉県千葉市、滋賀県大津市、石川県加賀市の3市から始まりましたが、今年度は東京都、東京都下10区市、石川県能美市、長野県筑北村の入会により、1都2県5区18市1村となり、導入自治体数は増え続けています。

表 My City Report 導入自治体の広がり

2019年4月	千葉県千葉市、滋賀県大津市、石川県加賀市
2019年度	和歌山県、岩手県花巻市、広島県東広島市、香川県高松市
2020年度	長野県塩尻市、静岡県富士市、愛知県みよし市、滋賀県高島市、 兵庫県尼崎市、和歌山県和歌山市
2021年度	神奈川県
2022年度	東京都、東京都下10区市、石川県能美市、長野県筑北村

より多くの自治体に参加していただけるよう、市民協働投稿サービスについては、今年度から来年度にかけて東京都・神奈川県・和歌山県の都/県下の自治体は1年間無償利用できるキャンペーンを今年7月から行います。また、今年10月からは、市民協働投稿サービスと道路損傷検出サービスの分離提供を開始し、必要なサービスのみでの入会が可能となります。分離提供開始に伴う価格改定の詳細は、[My City Report のホームページ](#)をご確認ください。

市民協働サービスの利用対象地域は、[My City Report のホームページ](#)に記載しています。利用対象地域では、ご自身のお住まいの地域にかかわらずどなたでも投稿が可能です。ぜひご投稿ください。

(注) ご投稿いただけるのは、for citizens & for road managers または only for citizens に記載のある自治体のみです。

## 2. 機能拡張状況

市民協働投稿サービスでは、今年度より LINE からの投稿機能の提供を開始いたしました。現在、千葉県千葉市、東京都港区、長野県筑北村でお使いいただけます。なおこの機能は、匿名投稿機能になりますので、自治体からのフィードバックは受けられません。

道路損傷検出サービスでは、来年度より走行中の画像を道路損傷の有無に拘わらず一定間隔でサーバに保存する機能を提供する予定です。この機能により、道路損傷のみならず、道路に付帯する施設や沿道施設等の状況を現地に赴かずとも確認することが可能となります。

## 3. 自治体総合フェアに出展します！【終了】

5月18日(水)～20日(金)に東京ビッグサイトで開催されます[自治体総合フェア](#)に My City Report コンソーシアムが出展します。ブースでは、My City Report の概要説明から導入や運用に関するご相談まで、担当者が個別にご対応させていただきます。さらに、ブースにお立ち寄りいただいた方には粗品を進呈いたしますので、ぜひご来場ください。

また、以下の通り自治体限定プレゼンテーションセミナーを開催いたします。こちらもぜひご参加ください。

日 時：5/20(金) 14:00～14:30

場 所：東京ビッグサイト自治体総合フェア内 D会場

テーマ：My City Report のご紹介



以上、My City Report の広がりについて紹介をさせていただきました。

昨年度は、おかげさまで[第16回日本ファシリティマネジメント大賞](#)の技術賞をいただくことができました。これを機会に、My City Report をインフラの維持管理にお使いいただく自治体が増えることを期待しております。

また、試行環境の無償提供も行っておりますので、自治体の関係ご担当者様に於かれましては、是非一度お試しいただき、My City Report コンソーシアムへのご入会をご検討いただければ幸いです。

お問い合わせ

担当：My City Report コンソーシアム 事務局長 角田

e-Mail：[mcr-info@aigid.jp](mailto:mcr-info@aigid.jp)

詳細は、[My City Report のホームページ](#)をご覧ください。

## 2. 上位アクセス状況(集計期間：2022.3.1-4.30)

登録ユーザー数	11,148 名
期間アクセス数	416,123
登録組織数	589 件
データセット数	7,754 件
ファイル数	60,659 件

### 人気のデータセット

1	3D 都市モデル (Project PLATEAU) 東京都 23 区
2	全国の人流オープンデータ (1km メッシュ、市町村単位発地別)
3	静岡県 富士山南東部・伊豆東部 点群データ
4	3D 都市モデル (Project PLATEAU) ポータルサイト
5	3D 都市モデル (Project PLATEAU) 東京都 23 区 (FBX 2020 年度)
6	静岡県 富士山および静岡東部 点群データ
7	静岡県中・西部 点群データ
8	メッシュ - 全国標準地域メッシュ 3 次メッシュ (約 1km 四方)
9	メッシュ - 全国標準地域メッシュ 2 次メッシュ (約 10 km 四方)
10	3D 都市モデル (Project PLATEAU) 東京都 23 区 (CityGML 2020 年度)

## 3. 最新のお知らせ

G空間情報センターの最新のお知らせは[こちら](#)

最新のデータ公開情報は[こちら](#)

最新のイベントをいち早くキャッチしたい場合は、ぜひ Peatix でフォローをお願いします☆

G空間情報センターイベント最新情報は[こちら](#)からフォロー(Peatix)

## 4. UDC 受賞者コラム (1)

地域の課題解決に貢献する作品を表彰する「[アーバンデータチャレンジ \(以下、UDC\)](#)」において、商用サービスや学術研究にスポットを当てる「ビジネス・プロフェッショナル部門」。

UDC2021 の受賞者チームのプロジェクトを3回のシリーズで皆様にご紹介します。

第一回目は、優秀賞を受賞した「[CODE for GIFU](#)」のプロジェクト！

社会課題解決のポイントやこれまでの活動の広がりについて、ご寄稿いただきました。

優秀賞 プロジェクト名：「伝統産業×IT で美濃焼の地域ブランディングを推進する活動」



**CODE for GIFU**  
石井哲治

“伝統産業”は、昔から続く技法を使って、日本の文化や生活に根ざしたものを生み出す産業を指します。伝統産業により製造された“伝統的工芸品”は、①日常生活で使われるもの、②主要な部分が手作りであること、③伝統的技術や技法、原材料を使っていること、④一定の地域産地が形成されることなどが「伝統工芸品産業の振興に関する法律」によって規定されています。

美濃焼の起源は奈良時代の須恵器からとされており 1300 年の歴史を誇ります。また、日本で生産されている陶磁器の半数以上が美濃焼です。美濃焼の最大の特徴は、その作風の多種多様さにあるといわれています。伝統技法を継承しつつ、改良を加え、その時代の好み（トレンド）に合わせて様々な形や色の焼き物が作られてきており、「黄瀬戸」「瀬戸黒」「志野」「織部」などどこかで聞き覚えのある名前ではないでしょうか。

美濃焼の種類は、伝統的工芸品に指定されているだけでも 15 種類におよびます。また、陶磁器には器からタイルなど多種多様な製品があるため、製品自体の良さや特徴を示す「モノ軸」だけでは文化的な背景を含む美濃焼の価値を伝えづらくなってきており、利用者の視点にたった「コト軸」での伝え方の転換が求められていました。そこで、CODE for GIFU では、「セラミックバレー美濃構想」という美濃の焼き物とその文化をリブランディングし、産業・地域を活性化する取組みをされている方達と、IT を活用した PR プロジェクトを 2021 年からの 4 か年計画で開始しました。生産者の目線からだけでなく利用者・ユーザ目線を取り入れるために、アプリケーションの開発等はデザイン指向のアプローチで実施しました。陶磁器の国内生産の半分のシェアを誇る岐阜（2017 年工業統計）だからこそできる「美濃の環境」と「IT」を活かした地域活性を目指しています。

PR プロジェクトは、2021 年 9 月に立上げ、キックオフしました。その後、①石川県能美市の九谷焼オープンデータ活用事例の学習（9 月）、②「伝統産業×IT でできること」のワールドカフェの開催（10 月）、③RESAS による美濃地域の可視化（10 月）、などの取り組みを経て、「データを作る分科会」と「イメージを広げる分科会」の 2 つの分科会を立ち上げ、活動を深化させていきました。同年 11 月には、美濃焼の産地の一つである多治見市にて、美濃焼の文化を体験するフィールドワークを 2 つの分科会合同で開催するなど、意欲的に取り組んでいます。



写真：美濃焼の登り窯の特徴について窯元から説明を受けている様子

・データを作る分科会

美濃焼に触れてもらう機会を増やすため、セラミックバレーに関する観光・お店・陶器等の約 1,000 地点のデータを収集して OpenStreetMap 等に登録しました。また、そのデータを活用したロゲイニングアプリ（スマホの GPS を活用して情報を集めて楽しめるアプリケーション）を開発しました。アプリは現在は開発途中の段階ですが、今後、アプリを通じて、ゲーム感覚で美濃焼の産地の知識を増やすことができるようなイベントを展開していきます。



図：美濃焼に関する観光のためのロゲイニングアプリイメージ

・イメージを広げる分科会

美濃焼の新たなファンの開拓、新たな魅力の創造など、イメージを広げるための「美濃焼×ナウシカ」を企画しました。アニメ『風の谷のナウシカ』では、土の無いセラミック（陶器）の世界が描かれており、美濃焼とアニメの世界観のコラボレーションによる相乗効果を目指しています。具体的には、セラミックの世界観を利用して①ARによる虫の群れなどの展示品の案内、②セラミックによる砂漠の再現等を実現していきます。



図：ナウシカの世界観と陶器を掛け合わせるアイデア

PR プロジェクトでは、アイデアの実現に向けて地域の方達と対話しながら進めていきます。CODE for GIFU では「伝統産業×IT」の取り組みを引き続き発信していきます。皆さんと一緒に伝統産業や伝統的工芸品を知り、産業・地域を活性化していきたいと思えます。ご興味がありましたら Facebook ページのフォロー、または、メールにてお問合せください。

<参考情報>

[セラミックバレー美濃構想](#)  
[伝統産業×IT プロジェクト](#)

<お問合せ>

CODE for GIFU 担当：石井

メールアドレス：[cfgifu@gmail.com](mailto:cfgifu@gmail.com)

ホームページ：<https://codeforgifu.jp/>

Facebook：<https://www.facebook.com/code4gifu>

## 5. 注目のコンテンツ紹介

### 農地筆ポリゴン



新潟市亀田駅周辺の農地の変化です。

緑色が現在の農地、茶色が以前農地だったところ  
です。右上には耕地整理された農地が転用され  
ています。中央の市街地に点在する農地は、徐々  
に宅地に転用されています。

対象データセットは[こちら](#)

過去のニュースレターアーカイブは[こちら](#)

### ご意見・ご要望について

G 空間情報センターは、高度な地理空間情報社会の実現と皆さまの事業の発展に寄与・貢献できることを目標としています。

当センターへのご要望、ご意見、ご助言等ございましたら、遠慮なくご連絡ください。  
最後までお読みいただき、ありがとうございました。

G 空間情報センターのユーザーアカウント登録は、[こちら](#)

G 空間情報センターのご要望、ご意見は、[こちら](#)

一般社団法人 社会基盤情報流通推進協議会(AIGID)

〒151-0053 東京都渋谷区代々木 1-10-5 代々木伊藤ローヤルコーポ 304 号室

メール : [info@geospatial.jp](mailto:info@geospatial.jp)

TEL : 03-6455-1845

※当ニュースレターの内容、テキスト、画像等の無断転載・無断使用を固く禁じます。